

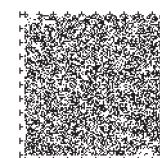
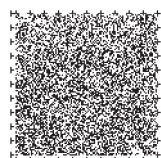
03

環境

自然を感じ、学び、体験し、 地域の生態系や資源循環に 責任を持つ人が増える未来

〔活動紹介〕

- いきもののうちをつくって学ぼう | イオンモール常滑 (愛知県常滑市)
- つながる庭プロジェクト～田んぼピオトープ～ |
イオンモール新利府 (宮城県宮城郡利府町)
- こどもSATOYAMAプロジェクト | イオンモール多摩平の森 (東京都日野市)
- サステナドライブ | イオンモール高岡 (富山県高岡市)



いきものの

おうちをつくって

学ぼう



イラスト：岩田瞳さま

どんなプロジェクト？

地域の皆さまとともに、緑の豊かさやいきものを身近に感じられる場所をつくるプロジェクト。モール内の保育園児と一緒に、モール内の緑地に「トカゲのおうち」と昆虫の住処(すみか)「バイオネスト※」をつくり、地域の生態系について楽しく学びました。

※モール内の枝や落ち葉を活用した昆虫のすみか



地域の生態系について学び、
生物多様性の保全に貢献する。



[共創パートナー] エスチャイルりんくう保育園

イオンモール常滑内にある365日早朝から夜間まで受け入れ可能な認可保育園。学年の枠にこだわらない異年齢保育を取り入れ、子どもたちの成長を育んでいます。



イラスト：岩田瞳さま

子どもたちに「トカゲ」の生態をお話する導入のために描いた、岩田さんオリジナルのイラスト。温かみのある作風は「いきものを怖がるお子さんもいるので、イラストから徐々に写真に」という配慮から生じた。

ここがユニーク！

通常は石でつくる「トカゲのおうち」を、常滑市の伝統工芸品「常滑焼」の廃材を利用して製作しました。



開催施設：イオンモール常滑

伊勢湾から中部国際空港を臨む立地。モールコンセプトは「海と空を120%楽しむエンターテインメントパーク」。グローバル(グローバル+ローカル)な取り組みを推進しています。2016年2月にABINC 認証取得※。

基本商圏：車30分圏 約17万世帯 約48万人
出店店舗数：約180店舗(専門店舗)
敷地面積：約202,000㎡
駐車場台数：約4,200台
オープン日：2015年12月4日

開催地域：愛知県常滑市

古くから陶磁器産業が盛んな街。「常滑焼」は日本六古窯の一つに数えられ、歴史と伝統を感じる街並みが広がります。2005年2月に中部国際空港(セントレア)が開港し、国際都市としても発展を続けています。

※ABINC認証は、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会が運営する、生物多様性に配慮した施設の緑地を認証する認証制度です。

エスベックミック×エスチャイルりんくう保育園×イオンモール常滑



エスベックミック株式会社
環境企画推進室
岩田 瞳 さま

イオンモール常滑
オペレーション担当
風見 琴子

エスチャイルりんくう保育園
園長
平田 裕也 さま

もっと地域の皆さまが
自然の豊かさを感じられる
場所をめざして

風見：イオンモール常滑があるこの地域は、埋め立てによって誕生しました。緑あふれる環境やさまざまないきものとの共生は、地域に根ざす私たちの手でつくりあげていく必要があり、重要な課題の一つでもあります。イオンモール常滑でも、オープン当初から屋外型エンターテインメントパーク「ワンダーフォレスト きゅりお」を設けていますが、まだまだ地域の皆さまが緑の豊かさやいきものを身近に感じられる場所になっていないのではないかという思いを抱いてきました。地域のために、地域の皆さまとともに何ができるのか。以前から、岩田さんたちと打ち合わせを重ねてきましたね。

岩田さん：そうですね。エスベックミックは、地域の生態系調査などを行い、生物多様性保全活動を支援しています。イオンモール常滑とは、オープン時の「イオンふるさとの森」植樹祭に向けた樹種の選定や当日のサポートを行ったのが最初の取り組みですね。この場所は、知多半島中央部の丘陵森林部からも3〜4km離れているので、いきもの生息空間の間をつなぐ移動経路作りや、

やってきたいきものたちが生息できるための工夫が必要。だからこそ地域の皆さまと協力しながら中長期的な視点で取り組んでいまいしょうとお話をしてきました。そして、未来に向けた一つのきっかけづくりとして2024年度に企画したのが「トカゲのおうちづくり」と、モール緑地内の枝や落ち葉を使った「バイオネストづくり」ですね。

「トカゲってなに？」

絵本で調べ始めた子どもたち

風見：まずは、いきものに来てもらうための準備が必要なのか……と驚きました。そして、いつも「きゅりお」で遊んでくれている園児さんにぜひ参加してほしいと考えて平田さんにご相談をしたところ、快諾いただきましたね。

平田さん：はい。子どもたちに特別な思い出をつくってあげられるのではないかなと期待しました。私たちは、ここのオープンと同時にモール内に保育園を開園し、2024年4月からは0歳から5歳までのお子さんを365日、5:30〜23:00まで受け入れています。保護者の方には、受入時間の長さだけでなく、立地の良さやお迎えのついでにイオンモールで買い物ができる利便性

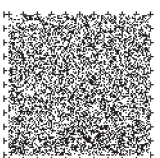
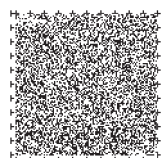
を感じていただけていると思います。一方で、自然と親しむという点では「きゅりお」で緑と親しめるけれど、いきものを見つける体験ができていませんでした。今回の企画について子どもたちに話すと「トカゲってなに？」から始まり、図鑑で調べる子もいましたね。そして、どんないきものなのかかわかると「おうち、つくりたい！」とイキイキとした笑顔が見られました。

ESPEC

共創パートナー

エスベックミック株式会社

地域の生態系を調査し、在来種苗・製品の育成、樹林や水辺、草地などの多様な生態系修復を手掛ける環境エンジニアリング企業。他に環境調節試験機器や植物工場事業も。



エスベックミック×エスチャイルりんくう保育園×イオンモール常滑

楽しむ子どもたちを見ながら
参加することで生まれた
次のアイデア

風見：岩田さんから「常滑焼の廃材を使ってトカゲのおうちをつくりましょう」と提案いただき、ワクワクしました。常滑市の工芸品を自然の中に取り入れるというのがユニークですね。

岩田さん：それぞれの土地の背景を大事にしたいです。イベント当日、子どもたちは「トカゲさんが来てくれるといいな」「どんな風に過ごすのかな」と言いながら頑張って材料を並べてくれました。そして、従業員の皆さんも楽しそうでしたよね！汗をかきながらノコギリで木を切って、枝をまとめて……と没頭する中で童心に返り、幼少期の話などで盛り上がっている様子が印象的でした。「鳥のモニタリング調査を発展させて観察会をしよう」「いきもの調査をしよう」など、アイデアも続々と。



風見：そうですね！これからも子どもたちや地域の皆さんがいきものに触れ合える機会をつくっていききたいという思いを強くしました。

平田さん：ありがとうございます。私も、今回のトカゲのおうちづくりの続きができたと思います。



風見：今回のプロジェクトを、近隣の高校生を対象にしたSDGs講義で紹介しました。実際にトカゲのおうちを観察しながら熱心にメモをとってくれていて「買い物をする場所」であるイオンモールの新しい一面や思いを知ってもらうきっかけになったのかなと思います。

岩田さん：「こんなこともやっているの!？」という、ちょっとした驚きですね。高校生たちが家族や友人に話して、家や学校でもいきものの住処をつくってみる?となったら素敵です。

地域の皆さんとともに
緑地づくりを伝播させていく

風見：これからも地域の皆さんに自然を身近に感じていただけるように、さまざまな取り組みをしていきたいと考えています。まずはバイオネストを活用して土壌を豊かにし、昆虫たちの住処となるように。そうすれば、いきもの調査や虫取りなども楽しみたいですね。

岩田さん：これまでもイオンモールは、地域の皆さんとさまざまな共創を実現して

きたと思います。ぜひいきものとの共生においても、イオンモール常滑だけの活動にとどまらず、地域の皆さんとともに緑地づくりを伝播させ、エコロジカルネットワークができることを期待しています。



平田さん：「エスチャイルりんくう保育園」は特別な保育園だと思うのです。ほかの保育園はその子たちが大きくなったらあまり戻ることはないでしょう。ですが、ここは「イオンモールに来たから、保育園にもちょっと顔を出してみようかな」と思ってもらえる実家のような保育園をめざせるのではないかと感じています。今回の体験が、子どもたちの心の中にずっと残っていて話題になるかもしれないですね。「20年前は、トカゲとかいきものがいなくて住処をつくったんだよね」って。これからも皆さんと一緒に、素敵な体験を届けていけたらうれしいです。



環境に関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

つながる庭プロジェクト
～田んぼピオトープ～

イオンモール新利府 | 宮城県宮城郡利府町

稲作体験で五感を満たしながら
生物多様性について学ぶ。

参加者の皆さんが牛乳パック(ドトールコーヒーさま、果琳さま提供)に種まきをして育てた苗を持ち寄り、田植えを実施。稲刈りや東北特有の棒掛けでの乾燥、残った藁

を使った正月飾りづくりや、いきもの調査など1年を通じて五感を満たしながら自然について学びました。収穫祭では、農家(雁音農産さま)から絶滅危惧種である雁の保全や無農薬栽培についてお話しいただきました。



PROJECT | CASE 03

こども SATOYAMA プロジェクト

イオンモール多摩平の森 | 東京都日野市

地域の大学生と小学生の輪、
自然共生の輪を広げていく。

屋上ピオトープの活性化をめざす中で、明星大学工学部の学生の皆さんから「小学生への教育の場」という新たな視点での活用法を提案いただきました。そして、学生の皆さんが講師となり東大和市立第八小学校の皆さんと一緒に屋上ピオトープで課外授業を実施。植樹や整備体験、ライトアップ準備などを行いました。参加された小学校では、体験を参考に自校でもピオトープを作成され自然共生の輪が広がるのを感じました。



PROJECT | CASE 04

サステナドライブ

イオンモール高岡 | 富山県高岡市

「誰かのために再利用する」
市内の資源循環を促進する。

サステナドライブとは「不要になったものを回収し、誰かのために再利用する」資源循環を促進する取り組みです。



モール内で食品・絵本・衣料品などを幅広く回収したほか、高岡市のご協力で、小・中学生から絵本や食品の回収を募って市内の保育園・施設に寄付するなど新しい循環の輪がうまれました。今後もたかおかSDGsパートナーとのつながりを大切にし、地域課題に取り組んでいきます。

まちの
いきもの+

衣料品常設回収
87モールの
で実施

